

四川省・花見の旅 (2011年6月28日～7月6日)

「踏まなければ歩けないお花畑に会いたい」と昨年の蘭に引き続き、大川健三氏に案内をお願いする。花の最盛期を狙った今回の目的地は丹巴の東、丹東の奥、4200mの峠を越えた莫斯卡(モスカ)である。

その峠付近には期待通りの花畑が広がっていた。ブルーポピー、赤いケシ、黄色いケシや昨年もたくさん見たサクラソウの仲間にも再会した。また高山岩礫地でしか見られないクッション植物に出会えたのは望外の幸せだった。これだから、四川花見行きは止められないのだ。

(関根茂子)



4200m峠下お花畑にて(7/2)スケッチ 関根茂子

初めての中国旅行 —驚きと感動の日々—

浅沼勝子

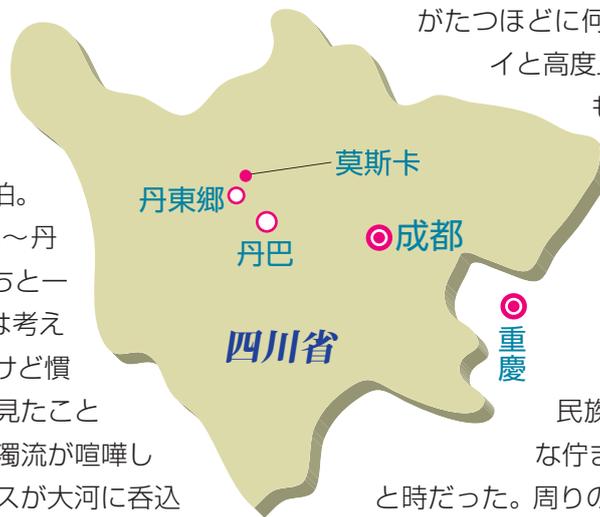
●6月28日 今年6月中旬から就航のANA成田15時30分発成都直通便で5時間弱で中国の土を踏みました。飛行場から車で1時間程のホテルに宿泊。

6月29日 乗合バスで成都～丹巴まで約10時間、地元の人たちと一緒に。車内は賑やかな事、日本では考えられないパワー。不思議な事だけども慣れてしまった。景色も私が今迄見たことのない雄大な大河。梅雨時のため濁流が喧嘩しているみたいな物凄い流れ。バスが大河に呑込まれそうな縁を只ひた走る。

●6月30日 4WD車3台に分乗し丹巴～丹東へ約6時間。道中家畜が道端に寝そべり クラクションを鳴らしては通過の繰り返し。道すがらだんだんと花が咲き誇って来る。丹東集落に着き、高度調整の為集落の散策、桜草群落に大感激。石積の民家、色鮮やかな壁、屋根の飾り物、目新しい風景ばかり。

●7月1日 莫斯卡(モスカ)集落へ向かう。

生まれて初めての乗馬。体中に力が入り落ちないように鞍に括まり、景色どころでは無い。私の馬子(女性)はとても元気一杯でトップをあるくので仲間の状態は分からない。言葉も通じないしオロオロ。でもゼスチャーで時



がたつほどに何とかなってきた。岩山をグイグイと高度上げて行く。念願のブルーポピーも沢山あり大満足。所々のお花畑で下馬した。馬に馴れないせいか足腰が立たない。特に内腿、膝に激痛。花に景色に癒され、時間の経つのは早い。民家へ泊る。

●7月2日 集落の子供達の民族舞踊を見学、珍しい寺院、素朴な佇まい、心の故郷へ引きこまれたひと時だった。周りの草原はまるでお花畑のように見える。ヤクが多く大木が見当たらない。



4200m峠手前の湖で憩う(吉井勉撮影)

🌟7月3日 モスカ集落より丹東への帰りは山を挟み周遊する。往路の林道ではなく緩く浅い谷沿いの地元チベット族のみ知る間道を馬で越えるのだ。これが、また素晴らしい景色だった。

峠の岩礫地では、はじめてクッション植物を見た。岩を覆うブルーの小花は丸いクッションの模様だ。段々と馬にも馴れ周囲を見る余裕が出来た。マタマタ素敵なお花畑に巡り合えた。

途中遊牧民のテントに立ち寄る。意外と中は温かい。ヤク乳でチーズ等作っていた。ゆっくり見学。

🌟7月4日 丹東から車で丹巴へ、4日ぶりのシャワーでさっぱり。後の2日間で帰国するだけとなる。初めての乗馬、岩山の上下り、川渡り、終ってみれば何とも大きな中国にハマりこんだ気分になっていた自分でした。



遊牧民テントの中でのチーズづくり (笠松豊子撮影)



モスカ歓迎の踊り (笠松豊子撮影)



クッション植物 (笠松豊子撮影)



青いポピー (吉井勉撮影)



赤いポピー (吉井勉撮影)